

第 8 回 県立高等学校編成整備に関する懇話会概要

開催した会議の名称	第 8 回 県立高等学校編成整備に関する懇話会
開催日時	平成23年11月15日（火）14：00～17：00
開催場所	（所在地）〒900-8571 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 （会場名）沖縄県庁13階第1会議室
出席者	委員（懇話会会長）前泊委員 （懇話会会長代理）前新委員 山城委員（上地委員代理）、城間委員、三村委員 事務局（総務課） 嘉数企画監、渡久山主任指導主事、桃原指導主事 （県立学校教育課） 山城班長、與那嶺班長、小成主任指導主事
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の人数	三人
会議の概要	1、開会（前泊） 2、事務局説明 （1）前回（第7回）懇話会の概要について → 指摘なし （2）HP掲載文の確認 → 了承
	<p><主な質疑> 前回からの継続</p> <p>中期計画について・・・事務局説明後各委員より質問</p> <p>○北谷高校は既存のクラスを2クラスと不登校や発達障害のある生徒のクラスを3クラス、南部フューチャースクールでは不登校・発達障害の生徒のみを3クラスとしているが、クラス編成は不登校・発達障害の生徒を混在させるのか、それともそれぞれの課題に応じたクラス編成をするのか。</p> <p>【回答】不登校、発達障害のクラスは3クラスであるが、不登校の生徒が学校に来てくれるかという懸念もある。クラスの中での構成はこれから検討したい。</p> <p>○南部について、全県となると広域から通学すると思うがそのような生徒は経済的な面が懸念される。寮をつくる計画があるのか。</p> <p>【回答】寮は想定していない。通学区としては島尻、那覇の南部を想定しているが、通学は可能と考えている。中北部については北谷高校を想定している。離島は想定していない。</p> <p>○那覇工業の中学生支援センターについて、高校の施設で中学生を支援することができるのか。学び直しなどの支援することが中学校の卒業条件に加味されるのかどうか。</p> <p>【回答】最もネックになるのは教員の配置だと考える。中学校の教員が入れるか、高校の教員が中学生を教えることができるか。ハードルは高いが、様々な方策を模索していると</p>

ころである。中高教員の交流として、県立与勝緑が丘中学校や県立総合教育センターの例がある。

中学校の出席扱いについては、那覇市のきら星学級等に準じて、支援センターへの通級で中学校の出席扱いとすることを考えている。

○中学生であるので、夜遅くなることが懸念される。

【回答】懸念材料として考えている。活動時間は夜8、9時までを考えているが、ただ遊ばせるのではなく、大人が見ている前での活動が将来につながるようなことであれば、夜間の受け皿として、このような施設もあり得るのではないかと考えている。

○フューチャースクールで100名募集の3クラス、1クラス30名程度であるということであるが、個別に応じた学級ということで枠にはまらない学級編成をお願いしたい。

発達障害のある生徒と不登校・怠学の生徒とは一緒にはして欲しくない。

【回答】フューチャースクールは、怠学・遊び非行型の不登校生を対象とした学校ではなく、心因性の不登校の生徒を対象としている。

○南部も心因性の不登校と発達障害のある生徒を対象としているのか、那覇工業に設置予定の施設は遊び非行型の中学生を対象としたものとするのか。

【回答】そのとおり。

○学年制ではなく単位制をとろうとしている。そうすると選択科目で生徒が混ざってしまうのか。単位制だと学区は全県区ではないか。

【回答】若干の混在は避けられないかと思う。ただし、現在のクラス数より減るので施設に余裕ができ、ある程度一般の生徒との住み分けは考えたい。普通科なので学区の制限はある。

○「中頭地区で不登校経験のある生徒の卒業後の予定進路（平成22年度中学3年生対象）」が示されているが、実際の進路がどうだったのか実数があったら聞きたい。

【回答】実施していない。

○調べることはできないか。島尻地区についても同様である。

【回答】不登校経験のある生徒が卒業前にどのような進路を希望していたかというものである。卒業後の調査は可能であると思う。検討したい。

○基本方向での議論で、単位制については子供達に科目を選択させることは難しいという意見があった。学校にあまり来ない生徒が科目を選び、学び続けることができるのかどうか、他県の例として好評であった秋田県のスペース・イオをあげていたが、この計画でどういかにされているのか。また、その特徴は高校へそのままいけるような仕組みがあったと思うが、この計画では中学校へ戻すということが基本になっている。立地についてもスペース・イオは駅前ということであったがどう考えているか。

【回答】フューチャースクールでは、基本的な5教科を中心に据えた単位制を考えていて、キャリア教育に準じた科目も考えている。教員のガイダンス力によるもの大きいと考えているので、職員研修の充実等を図りたい。

スペース・イオは県立高校の職員が中学生を見ているが、そのまま高校へ入学できるのではなく、一時預かり的なもので中学校卒業を前提としている。中学校の卒業

を手助けするという理解でお願いしたい。

立地については都市部への新設は厳しいということでこのような既存校2校の計画になっている。

○フューチャースクールの3クラスとあったが、1クラスあたりの定員の目安はあるのか。

【回答】40名の枠では、このような生徒を見ることは厳しいだろうということで、1クラス30～35名で考えている。

後期計画について・・・事務局説明後各委員より質問

○福祉科は、今後も高校に残るのか。陽明は学科で、真和志はコースであるのに陽明高校の福祉学科が廃科というのはなぜか。資料では陽明が充実しているように見える。

○全国校長会での福祉科の校長の話では、福祉科は今後は厳しいということが話されていた。

○陽明高校に資格を取れるような教育課程の検討について聞いたら、学校側が導入しないということであったようであるが、県としての指導はどうなっているか。

【回答】学校の希望でだけではなく、指導主事と話合っただけのことである。

○法改正があつて陽明高校としても学科の存続が懸念されることもあるのに、学校はなぜ対応しなかったのか。

【回答】陽明の福祉科についての疑問は、「①法改正のときになぜ、手を挙げなかったのか。」「②教育行政としてはなぜ、てこ入れをしなかったのか。」だと思つるので、確認したい。

改正の部分

・福祉に関する授業の時間数の拡充

1,190時間 → 1,820時間

現カリキュラム1,820時間（夏季休暇中の現場実習等も含め、卒業時に国家試験受験資格がとれない）

・27年卒業する生徒に対しては新たに「医療的ケア（タン吸引）」の授業30時間実施が求められている。

○次回のこの話題のときまでに回答をお願いしたい。

○現在、福祉系学科は2学科であるが、増やす必要はないのか。量的なものを聞きたい。

【回答】地域のニーズ等もあるので、この計画で量的なものが、定まるものではない。

福祉系の養成学科・コースは、陽明、中農、真和志、沖縄水産総合学科にも福祉系列があるので、あわせて4校になる。

○陽明高校の学科を移す理由について、総合学科に系列として残し効果を期待するということであったが、総合学科単独校と併設された学校での総合学科の効果の違いはどうなっているか。他都道府県で、総合学科単独あるいは普通科などと併置の方が複合的な効果があるのか、などの調査はあるか。

【回答】効果などの資料は手元にないので、次回の議論までにそのような調査があるかどうか調べてみたい。総合学科の学科数は平成22年度現在で349校である。

○総合学科の生徒が1クラスしかない介護福祉科の授業を選択するのは難しいと思うが、逆に介護福祉科の生徒が、総合学科の授業をとることは現状ではどうか。

【回答】陽明ではそれぞれまったく別の教育課程なので、お互

いの科目は履修できないことになっている。

長期的な計画について・・・事務局説明後各委員より質問

○過大規模校の適正規模化の部分には「収容定員を策定する段階で学級減を実施していく。」とあるが、手法としてはこれだけなのか。

【回答】過大規模校は人気校でもあり、なぜ人気のある学校の定員を減らすのかという議論もある。

この編成整備計画で、別の手法でやるというのは影響が大きいと考える。

○1学年あたりの平均学級数は、全国的に見て沖縄県は6位であり多い。6位までには大阪、埼玉、奈良、愛知、神奈川が入っており、都市部である。九州では10位までに入っているのは福岡と沖縄だけである。平均が低いのは山口、北海道、島根、岩手、高知、秋田である。これは気になるデータではないか。

学力問題がささやかれている中でこれとまったく関係ないとは言えないと思う。過大規模校については十分論議する必要がある。この件に関してはあとで議論したい。

○過大規模の12校とはどの学校か、ほとんどは普通科ということか。

【回答】大規模校は、首里11クラス、那覇11クラス、浦添10クラス、小禄10クラス、コザ10クラス、普天間10クラス、那覇国際9クラス、那覇西9クラス、知念9クラス、南風原9クラス、糸満10クラス、那覇商業10クラス、以上12校となる。

○併設型の中等教育学校については、与勝緑が丘1校しかないので懇話会の中では2校ぐらいあった方が情報交換などが充実して、いいということであったが、早めに計画されてしかるべきであると思う。長期的な計画に位置づけられているのはなぜか。

【回答】基本方向の中でも那覇市だけで考えるのではなく、他の地区でも検討してはどうかということで、すぐにではなく10年スパンで考えてはどうかということでまとまった。実施計画（素案）では、それぞれ検討したが、具体的に上がってこなかったということであり、時期を特定しないで検討していくことになった。

○10年間の中で実施するというのも考えているのか。

【回答】インターナショナルと中等教育学校については、必要であるということであったが、すぐに設置は厳しいということもあったので、計画から外す考えもあったが、10年間で設置の有無も含めて検討するという事で記載している。

○10年間では難しいということか。

【回答】このことについてはすぐに答えられない。この場で議論していくことになる。

○与勝の校長が言っていることだが、併置型中高一貫教育校1校では厳しいということである。

○今のご意見からも、既設のものを支援することもバックにあるということを考えていただきたい。

懇話会委員意見・・・基本事項について

○基本事項の部分で「フューチャースクールについて」は脱落してはいないか。

	<p>○学科の割合で、普通：専門：総合＝6：3：1で、普通が6というのはよくないと思う。沖縄では第3次産業が80%と他の産業と比較して多いという特徴があり、第3次産業が多くなればなるほど普通科志向になると考える。大学進学率を上げるということを県が目標としているのであれば、進学に有利なのは普通科であるので、普通科を7、8割にはあげる必要があると考える。</p> <p>○学科の割合については、事務局は「6：3：1を目安とする」と話していたのでこれでよいのではないか。</p> <p>○全国の普通科の平均が65%であるので、沖縄は全国の平均でいいのかということの問題提起したい。</p> <p>○地域によっても違いがある。沖縄でも地域によって差がある。これを一つの目安にしようということである。</p> <p>○実際には、この6：3：1というのは編成整備に大きく影響すると考える。</p> <p>○中高一貫校については、うまくいっているところもあるが、あまりうまくいっていないところもある。課題の中で、学力試験がないので学習への意欲面が湧かないと指摘されていて、問題提起もされている。連携については検討する必要があると思っているか。</p> <p>新しい実施計画（素案）では伊良部、本部はなくなってしまうが、久米島は続けていくのか。</p> <p>3校は学校を活性化させようということで中高一貫校を導入した結果、生徒は増えたのか、減ったのか、ということである。</p> <p>割合として30%～50%以下で推移しているということは、地域の生徒が地域の学校に行かなくなったということについてはあまり効果がなかったということか。地域の子供達が地域の学校への進学が期待できるかということである。</p> <p>○本部町の成績上位の生徒が、相当数名護高校に進学している現状がある。本部高校を再生させるのはその辺に対応する方法を考える必要があるのではないか。</p> <p>現状でも本部町の中学生の約半分は本部高校へ進学している。これからすると本部高校を廃校にするのはまだ早いのではないかと思う。</p> <p>生徒数減少傾向については、学級数をたたむ方向で対応できないか。</p> <p>○ある程度の生徒数がいた方が教育効果があるという建前論はわかるが、地域の小規模校、地域も一緒になって取り組んでいる学校を残すにはどうしたらよいか考える必要があるのではないか。</p> <p>○本部高校と北山高校の部活動状況の表では、統合で都合がいいのはバドミントン部だけで、これだけに効果があるように見える。</p> <p>○続きは次回、事前に意見をまとめていただくようお願いしたい。</p>
	<p>4、事務局より諸連絡</p> <p>○最終回の日程調整について予定は12月16日として、欠席の委員も含めて調整したい。</p>
	<p>5、閉会</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>担当課 沖縄県教育庁総務課教育企画班（渡久山・桃原）</p>

電話	098-866-2705
FAX	098-866-2710